



涼石
大町

元禄十四

半紙本一冊

杉亭文庫本

中村俊定文庫
文庫 18
146





大都長途の無事
 わつみの笠乃下すみと
 今下も北年おのむし
 なりともほのめすま
 一句も



夏の月清油より出て赤坂や

芭蕉

村里吟

行露

かちてや依百足のれや巻尾の



苦契

卜室や鳩根性の少くれ声

其角

逸物の犬の歯かきや交の系 大町

五月十日江戸と立

其角

振てり江戸と空際り 相蔵

探題少内八句

射場新樹

山蜂

あつ花やちるえぬ豹ののまおれ

舟中子規

江墓

取擢は浪のちりあはれもあは

五月雨琴

大町

さしこれよ小あめあめ琴のう上桐子

社既蟬

一雀

すしめや何せみのあはれ

市句雨

其角

考り香もくもくくま 醒

寺前涼

尺八や所々山陰の塚よきく

心水

旅籠法水

楓子

此はくれ牛よひくれは海あり

文寝麻

大町

すえ膳の鱈やうまき

康の親

こゝろは花玉の舟の目あて
ふれそあまのこぼる傳
えそ今八浦人も伝のぞん
高樓水閣あめくのちり
はめ隊中よきそこえり
まて其名ろことらうり
り理のねぬとに繁
花の端とあふれ傳り
そとらうまきとら

市守久へおしる中
とて永代橋よわなを

晋子中て曰焦尾琴の
も〜〜一景を遊くも
うけあひのそのれ念比
あ〜心へと

〜〜や夷れあへ乃友木立 大町

尾〜〜見出れ〜〜蟬 景帝

新橋と〜〜系よするはわくに 心水

まふ板とも成〜山守 其角

鷄のきれ尾頭海くれ片尻 昌川

舟の磔先んあれを以て 堤亭

松入りこそ土足とゆれ月らん 紫紅

〜〜と〜〜秋の川料 入松

家〜〜小山もさ〜秋のれ 楓子

膝とひさことた柿 琴 午寂

お悟氣と中間式の口りを角
を成りてて志あり酒川
墨と墮てむう 愚可板に水
一本杉は短乃時より町
をわたりこれ温飢はほろ指席
木津ハ錦は河に子
纒カラダももあはくは月夜カ亭
赤い赤い初草や 飛角

まのちれぬ耳よあかり秋風を寂
小判ち事うあけを寐る水
白衰をきくんうの花盛帘
三七夜よなれ曲水の宴子
哲言文といふはて無うひより笛水
忍ほり一他よ雨事年の柄寂
上ぬりや赤土との園伽の水川
千辨佛も雲ハあひま紅

ぬす人の多とすて放りり亭
かこしけきく老ゆ地既住子
子柘多鳥羽東よおとろへて紅
あらの木 賃 椎柴乃露
は流乃物^薬あらしる月の礼所
枕敷子のぬるハなり 帘
蛤の上紙二三里漕とせり 川
肥前と集ハ路あるへし 子

きんごはな 雄波のまの後はて 角
まをを得及さするやれ紅
安全乃揚屋の鏡ふつふ町
犬たろろ紙心等ておさゆる亭
鬼の首常と下の小物既帘
存と二人寝るや成て旅蚊を川
いつの世に^鳥きりし橋を 牡あ南盛
まを集ましとれ毎うぬい六松

吸ついであゝよめそゝり頬の味亭
袖ろくせうねぬものゝ大間寂
天秤を浴系硯水うねる紅
胸は廣斗目のうゝ熟母方盛
鴨の毛や巴多り細 少路松
一畚所と出きぬけの板町
目付役花の陰ある俱生神角
諷乃もぐれ廣ふはる凡井已

ウ
勢の異よ三線糸乃置ところ所
丁子際きゝる雲ふりやな一吟
京橋よけ者左をよれ下に蟻
百くふ大豆乃命ともうを角
い勢海老よゝなる海蝦と
箒てぶらとをかろゝを掃町 紅
臍のりとさめり一人はあはれ吟
坂東声もはくれまの歌臺

笈の味増山河の露よなれり角
唐よむろそ 乾海とさけり紅
これととふの吐逆をさそふ水町
黒持えり海苔とれ海士 吟
鯛足もせつる具もせうれて 墓
その川と 枕をとるづん 邯鄲角
茶碗賣 荷葉のふらふららん 吟
お女乃雀目門庭はる町

細呂衣衣と鷹球球思ひたり 紅
白栲ウタとの子色袖の遊せ 角
大判の墨こちくとハヤハ 蟻
擲る風ハ白を佛乃舍利 吟
翠丸キントマへ勢よりあらしの浦角
菓ひろそとれを金物 紅
無テ前ク八月ナまつまつ人つふ町
雁入テ蟹クり猫よもつと 墓

^{ナウ}
 穢穢^{ナウ}の七の社乃ゆきさすき 吟
 河系^{コケイ}紅の涼乾てり 紅
 何痛^{コケイ}とと^{コケイ}筋^{コケイ}を 引車角
 きてきくくや 腋布袋履 蝶
 おこきの輪者^{コケイ}僧^{コケイ}もまよ^{コケイ}厚^{コケイ}紅
 うさよも^{コケイ}帯^{コケイ}も^{コケイ}法^{コケイ}の^{コケイ}曲^{コケイ}水^{コケイ}所^{コケイ}

法會の詞

大町家よあ^{コケイ}紙^{コケイ}得^{コケイ}て^{コケイ}け^{コケイ}とよ
 耽^{コケイ}る^{コケイ}を^{コケイ}よ^{コケイ}し^{コケイ}し^{コケイ}が^{コケイ}飲^{コケイ}人^{コケイ}を
 中^{コケイ}と^{コケイ}し^{コケイ}を^{コケイ}の^{コケイ}れ^{コケイ}を^{コケイ}下^{コケイ}こ^{コケイ}の^{コケイ}下^{コケイ}と
 早^{コケイ}下^{コケイ}し^{コケイ}て^{コケイ}ま^{コケイ}つ^{コケイ}ら^{コケイ}腥^{コケイ}者^{コケイ}子^{コケイ}と
 う^{コケイ}鮑^{コケイ}魚^{コケイ}の^{コケイ}肆^{コケイ}る^{コケイ}鼻^{コケイ}と^{コケイ}ま^{コケイ}
 う^{コケイ}私^{コケイ}服^{コケイ}乃^{コケイ}雨^{コケイ}も^{コケイ}垢^{コケイ}づ^{コケイ}く^{コケイ}所
 い^{コケイ}と^{コケイ}市^{コケイ}中^{コケイ}一^{コケイ}字^{コケイ}の^{コケイ}人^{コケイ}と^{コケイ}言^{コケイ}は
 心^{コケイ}ら^{コケイ}り^{コケイ}も^{コケイ}表^{コケイ}中^{コケイ}郎^{コケイ}り^{コケイ}脛^{コケイ}者^{コケイ}の
 翅^{コケイ}を^{コケイ}う^{コケイ}り^{コケイ}て^{コケイ}或^{コケイ}時^{コケイ}ハ^{コケイ}を^{コケイ}境^{コケイ}り
 あ^{コケイ}そ^{コケイ}ひ^{コケイ}車^{コケイ}下^{コケイ}よ^{コケイ}一^{コケイ}種^{コケイ}の^{コケイ}お^{コケイ}る^{コケイ}所

アツけて祖父三十三回乃懐
奮乃志とのぶせし其業よ
々しくあまを 敬つて孝乃
あうりとせんを 気より
月公度
わあ〜〜

其角

法乃き免筭羨血とかみうふ
夏野の酒をけし受中落 大町
嫁くはるるのほえすこ出て 山蜂
いゝ天窓〜〜とあすむら雨 一雀

正面は廣蓋垂れおれ月 江墓
庭中間を松乃々やふき 入松
浦風や渚の萩も網のよよ 楓子
洞々とのそくも蜜桶なり 筆
胡立れ敷毒散ハ五人 佐 大町
枕刀り 枯鞋を 墨 其角
大歳無し山より越て採の香 一雀
きほひよつれそ犬も勝鯨波 楓子

石乃上^{イッパ}社直の^イ水篋^イりつくと入松
削つてかげの^イ清丸^イ本橋^イ一雀
後月安二挺の^イ弓の^イ弦も^イ分江^イ墓
志^イ好^イの^イ関も^イ四^イ八^イ鷹^イ楓^イ子
志^イつ^イな^イ黒^イ子^イの上^イは^イ肩^イ根^イ杵^イ其^イ角
舟^イて^イあ^イり^イを^イと^イる^イ孟^イ葉^イ益^イ山^イ蜂
料理^イ人^イ月^イう^イり^イ月^イは^イ袴^イる^イり^イ大^イ町
ほ^イえ^イお^イ海^イく^イら^イ飯^イ所^イの^イ處^イ入^イ松

名

郡内も懐ひろきい^イ花^イの^イく^イ楓^イ子
五寸^イ乃^イき^イせ^イ流^イ三尺^イの^イ後^イ江^イ墓
飛^イ込^イて^イ志^イの^イの^イ鯉^イ乃^イら^イ妙^イし^イ山^イ蜂
ま^イち^イれ^イ面^イを^イと^イる^イ誰^イ子^イと^イ其^イ角
少^イり^イ袖^イ紙^イ袖^イは^イけ^イす^イも^イ相^イ山^イ一^イ雀
塊^イの^イも^イま^イる^イく^イう^イれ^イ世^イの^イ中^イ江^イ墓
さ^イ川^イを^イり^イや^イら^イ水^イの^イ代^イは^イ心^イ太^イ山^イ蜂
鉄^イ炮^イ組^イハ^イく^イま^イい^イあ^イげ^イほ^イの^イ入^イ松

物考の身ハぬれりる雨度江墓
ひく信心ハ布毎此神杖楓子
としもはや白粉際よ浪のる大町
櫓ヤクよ織オリ束ムこ乃 之を續其角
浅漬る鬼乃かい糸を引出で山峰
を江地段ハ降土双六一雀
一万歳乃お寺よ泊る船の月大町
一天イツテンハ海浪りまむとくハ入松

燕と沙那王殿と花の太刀山蜂
土罵谷へ投—— 童童於江蟬
聞キク説ナラフ兄大佛を奈良の京 其角
とをりりりぬまふ三寸三寸舌 楓子
あきしりなをくしりな 負ツて患患海 入松
隣トナリの所て切つとくハ夢 大町
は寒サムイ夜孤をあふて飯飯よ焼一雀
叫叫てゆげく席あり跋跋を筆

七月流火あり

專吟

腹尚や背よかりり秋の風

熾燭うけをなめる 竈馬大可

今春よ^も^もなるも^も橋乃月其角

澄い指もハうき 麩之り 江暮

車戸よ風う漲する^も走る^も山蜂

志すあり^も^もと^もらん^もお^も 薙紫紅

草菴

秋集二十四句

隣うら^も草子の養子や夕日影

山蜂

柄抄の蜘蛛八月を^も見ぬ^もか^も 其角

半^も乃^も糸^も所^もく^も河^も亭^もの^も 大可

お堅い^も竹^も直^もハ^も大^も玄^も関^も之^も 江暮

立^も糞^も我^もひろ^もへ^もえ^もさ^もく^もむ^も 荏紫紅

鼻よ^もた^もほ^もく^もう^もカッ^もて^も来^もり^も 蜂

あまのハ納豆のあまなまはく角
嵐嵐ハハはらま世の中町
指ふくハ一気ハ海ぬえ三波川
横の拾り今ハか子撞紅
あまのあまき採ハ難なき採り蜂
蓋の立なりハ強む 因人角
宗門ハ四門ハわけて平の月墓
十六七八家ありき料蜂

左右を~~る~~廣袖うつく長彩町
舟ハ五艘ハ山王乃あり紅
松鮓魚木よのほる花るは角
好もこの口ハハ物種ハ代まで墓
柴屋を忍ぬ旗奉ハ~~あり~~紅
不之ハを打之り水の角
土の揚を少あり~~か~~食鹽尾~~ハ~~墓
先ハ柴屋ハ思凡指切町

消して又秋高情ハ^ハゆまの香^香 塚
 恙つてもおすすや一ツ帷子 墓

舟の碇を^舟流^舟女^舟房^舟を^舟こ^舟り^舟
 ちの川の^舟お^舟ひ^舟て^舟る^舟も^舟
 の^舟ま^舟る^舟す^舟る^舟を^舟
 葉^舟の^舟侍^舟り^舟て^舟ゆ^舟宿^舟
 ん^舟送^舟り^舟ち^舟る^舟を^舟

舟の碇を流す女房をこりて
 舟の川のおひてるも
 舟のまるとするを
 舟の葉の侍りてゆ宿
 舟ん送りちるを

舟

七子^舟中^舟泳^舟乃^舟供^舟子^舟 掃^舟乃^舟と^舟 拙^舟支^舟
 岸^舟地^舟乃^舟海^舟う^舟り^舟れ^舟も 里^舟お^舟 園^舟指^舟
 掃^舟らん^舟て^舟岸^舟の^舟船^舟平^舟 天^舟川^舟 山^舟塚^舟
 七^舟々^舟乃^舟月^舟の^舟河^舟ら^舟く^舟 西^舟を^舟舟^舟 江^舟墓^舟
 舟^舟の^舟舟^舟の^舟初^舟り^舟お^舟ち^舟 天^舟川^舟 一^舟雀^舟
 苦^舟沙^舟乃^舟山^舟あ^舟わ^舟る^舟舟^舟 沼^舟何^舟 舟^舟
 舟^舟覚^舟せ^舟と^舟舟^舟よ^舟流^舟こ^舟の^舟ひ^舟毒^舟 大^舟町^舟

送^舟 舟

父の表し

七夕や質屋も去るむの夜半寂
ぬ鞆の躰のうらや玉送り大町

永代のあまのあま

遊山火を昔のきりや玉むく其角
糸巾の帆柱はうらやのうらや 築地

雨長柳をなま

^{カウキヒ}玉糸を流るる昔やあんな年 其角

百首をなま

ほろきり人乃面見と下氷うら 其角
生壁のけしき路や都 公梅扇
お出入のむくぬのそや幾月午寂
時鳥あまのれ物なり 二子山 雪吟
小役者けしきさげをば子規大町
出舟乃食此あつさやほろくす甫盛
わう産の親う宿免の都公世那

かんこりり 駕寄者のしを ねがふ大町
下はく梯の齒 くらやんこさ 闇指
郭公こころもせよせん 雲山 昵毒

牡丹

大壺おろいて通りし ほんぶ大町
熊坂乃名よ立ちくくー 牡丹子 山蜂
業平の荷と廻し 水たん 一雀
鳥取の袖 泡まよ白ほえん 泉

相作り 湯 ^居おとくさ 牡丹うぬ 暮園
出まほらん 名楼あつて 後れん 山賑
うのとねま 入寺の情も あり 堤亭
あし女ハ都て 入る 祈礼 疎木
遊靴も ゆるく ありや ありや 多雀

高臥

紙燭して 市場屋よ
糸れ仕形 曾我
行露

七つ毛乃蚊は苦むや足疾鬼才角
かやうり男や女をいふせき佐田妻午寂
あのおもひのほろりてや眉ぬりさ 景帝

あはれ風のほろりてや眉ぬりさ
一羽の影と望は解き

涼後安房や上流は船あり 其角

母れ物屏風はぬすみふ 大所

猿猴う松うぬへ夕すゝ見 京帝

孝山の牛ようもや楊をくも 幽笑

腰ひく榎みよやゆふうゝ 其桂

月影の川や涼くまは是乃原 紫紅

お鳥や岩戸をひくく揚をくも 江嶺

涼くれ大川はくハあゝ子そ 琴凡

くももあると空の遊ばれて涼は 大町

夕まや路の上くまうゝ川 若園

夕まらやとテ柱より金の雲 景帝

あふ〜とてうら
まるとは

蠅のちる借し編笠や柳陰大町
被るをよむれは流や徳と物 景帝

閑倚橋

目ハてるもも後ぬ後水や鱗の泡専吟

観妓

そられ草^ちかりり来や額際 亀毛
心何^ち跡や弟^ちは屋つ^ち舞の^ちこ 尼
目^ち壽

塩竈や煙ととらつん言乃峯魚子
う〜海より熊谷の次郎^ちの^ち景帝
七人んと箔やがやうもれは^ち水

それあま白井画しるよ

夕のほや一白のこ花の^ち有 其角

緑槐高慶

こ川蟬や笛よ袋紙や^ちみ子^ち全

一盃もくくく水のお^ち歌^ち無

枕のハ香よのり家アんこぶ 大町
 ふゆふゆも林檎ハ油て面白 其角
 片破の表紙とんアんこぶ 入松
 頬のそふは喰はくアんこぶ 是れ
 こ乃アんこぶのそつるげ 深和巾 出守
 玉なるは百万遍にアんこぶ 新真
 金沢 瀬戸 明 糸 糸 糸
 一口は四石八本 雲乃 峯 大町

石譜

福徳よ御りて悪の里より
 石と尋ぬ里の立里れ所へく
 いへるハせうし山乃ふまきと
 此石のハ麦草とありしと
 こ乃石強試るゆへ醜しと
 此石ハ石強試るゆへ

早苗とるふゆふゆも昔志おまきり
 芭蕉

石のたりにてりきほな
 ありしきいしきもや

大町ある奇石多し

石に石の法文流やむき蛭 其角
曉酌を照よ乃せし流すこころ 秋航
石撰馬夫と姉ハとよほする 幽焚
復の日よこれをも来不連理石山蜂
野比奈う下園石やるの息 大町
鯉舟猫とるる目やあつ石 当吟
付不乃いせよ白よほする水 口遊

文此夜脚波ホするや麻の石午寂
秀こぬる彩やほ水ホ乃脂ヤニ紫紅
獲越や日鏡よせくる磯法江江蟆
川ハ一そそひれあふやまらけ 心水
下やまや山列てのそく老り石 魚十
新寺を屋うと夕為人やすそ石 云暮
大お撲孫くくつげ目ん石 泉石
夕うらよ勤ぬ法くや 蛙 不其已

物舟とふめりり 不々東の香 景帝
白雨や踵をたれく 石を艶 入松
石灯籠 坂屋は清く 物舟は 其角
藤花は 柳より やに 雁渡石 大町
鮎よてれ 中川を 乃ほさく 不務志
君く代や 涼御 羽衣さ くれい 朝叟
坂屋や 子曳の 石のみ くれ 狸序令
と川せよ ^{みゆ} 年ひつ ^{うら} 獣石 白獅

うらー ^く てる ^ま 更ぬ ^の お百合 ^か 沾洲
夕うらや 器量 尺 巻 坊 立 石 江 臺
あふ ^い ち ^な 家 ^あ 河 ^な 友 ^は へ ^く 朝 叟
す ^し さ ^ら 石 ^の 穂 ^と 若 ^の ち ^り 一 雀
袖 摺 ^の ぬ ^も 香 ^蓋 乃 ^白 う ^子 序 ^令
如 ^智 黒 ^や 石 ^の 鼻 ^の 汗 ^当 吟
石 ^を 焼 ^蛋 の ^ゆ り ^を や ^め り ^り 吟 楓子

祭 申興

海他の取明鳥や枕多因とも大町
我等もさして下ふや 土車 其角
そめてけ 数車絆や 数る 東潮
多りゆともさ 木障りの 棧渡船 吟
顔出して 扇あつる 申宮式 百里
さまたれ 法水よすけ 数子 席令
筆とり 申宮の 芝の 法しく 新真

具足著の 尻流の いさしや
袴の 敷 午寂
定の 香の 並流より 御旗折 白柳
さす 氷の ちやせよ けて 汗を 法洲
二階みふ 公候 案乃 彦所 景帝
袋より いう ちの ともを 御車 絆 心 采

祝七日

兄弟の中 階紐や 井の 佐 朝 叟
うら照て 湖をの せ 祭外 楓子

物々有云大暑其酷也。季
布一諾。乃以之此凉下味。矮屋不
可居者。如在紅爐中。唯以雨子
及風者。如禪。飲露。固小邪也。蓋
大町々居枕江畔。其右曰夷
前。自吳自楚。自東自南。商船輻
輳之地也。鹵渚踏沙。連接遙嶺。
日爲遠樹鬱蒼。波之萬頃長。

共一色。星動水明。帆飛烟谷。孤
島吐月。浪鳴下流。於此大町靠欄。
展簟散髮。披襟而不。忘其之。為
復。竟灑。草于涼石之露。以寫。小
卷者。僅是。可忘暑之便也。可呵。

辛巳秋初

居士題書

